

○提案内容

**(1) 実現したい都市のビジョン**

札幌市まちづくり戦略ビジョン(目標年次:2023年)では、「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」と「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を目指すべき都市像として掲げています。

これを踏まえ、札幌市のまちづくりにおいては、現状の都市課題を踏まえ、「魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり」を目指すことが重要だとしています。

特に、自動車を持たない高齢者なども安心・快適に暮らせるとともに、市民生活や都市活動のエネルギー効率を高めるため、「公共交通を中心とした集約型のまちづくり」とすることが重要です。

また、近年、当市のインバウンド客が飛躍的に増加するなか、国内外から多くの人々が訪れ、様々な交流や活動が活発に展開される都市となるためには、札幌の顔である都心部の魅力と活力を高めるとともに、まちにうるおいを与えるみどり豊かな都市空間の創出や、良好な都市景観の形成も重要です。

さらに、人口減少・超高齢社会を迎える中でも、市民生活や都市活動を支え続けるためには、都市基盤施設や市有建築物の計画的かつ効率的な維持・保全と併せて、特に市有建築物については、機能の複合化など、効果的かつ効率的な再配置が必要です。

以上の点を踏まえ、当市が取り組むべき基本的な戦略として、以下の4点を掲げています。

- ①公共交通を中心とした集約型のまちづくり
- ②札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にする
- ③都市の価値を高める緑を増やしたまちにする
- ④都市基盤が適切に維持・保全されるまちにする

また、札幌市では、上記のまちづくりビジョンを実現する一つの手段として、まちづくりにおけるICTの導入展開に積極的に取り組んでおり、「札幌市ICT活用戦略」イノベーション・プロジェクトの一環として、データプラットフォームの構築や札幌都心部の地下空間に人流センサーやビーコンなどの各種ICT機器類の設置などを進め、上記のまちづくりの目標実現を進めています。

**(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題**  
 ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>当市が進めるICT活用戦略の全体像は下図に示す通りです。</p> <p>当市では、「平成29年度 総務省 データ利活用型スマートシティ推進事業」を活用し、「札幌市ICT活用プラットフォーム」を構築し、現在、当市が抱える様々な都市課題への解決に役立てる取り組みを実施しています。</p> <p>当市が進めるICTまちづくりの解決すべき当面の課題は以下のものです。</p> <div data-bbox="507 1272 1295 1594"> </div> <p><b>【当面の取り組み課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①観光活性化に係る取り組み</li> <li>②交通対策 (公共交通利用促進、歩けるまちづくり)</li> <li>③冬季の積雪・路面凍結対策</li> <li>④健康まちづくり (歩けるまちづくり ＝コンパクトシティを含む)</li> </ol> <p><b>【当面の重点課題】</b></p> <p>上記課題のうち、平成30年度には、国土交通省の事業であるスマートシティ実証調査において、スマートウェルネスシティの実現を目指し、「健幸ポイント」制度の導入を核とした、市民の健康増進、公共交通利用の促進、そしてこれによって取得できるビッグデータを活用したスマートプランニングの実証を実施しています。</p> <p>健康分野は、当市が抱える重要な政策課題でもあり、その充実が今後の課題となっています。</p>	<p>(ア) 交通 モビリティ</p> <p>(オ) 観光・ 地域活性化</p> <p>(カ) 健康・ 医療</p>

### (3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

当市が既に導入している技術は以下の通りです。

#### 【既に導入している技術】

##### ①札幌市ICT活用プラットフォーム

当市が進める各種ICT活用まちづくりのベースとなるデータプラットフォーム「DATA-SMART CITY SAPPORO」を先述の通り総務省の事業で構築し、既に、まちづくりへの活用を始めています。

##### ②人流センサーやビーコンなどの各種ICT機器類

札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)には、人数と方向がわかるセンサーを設置し、主に防災対策の視点で活用しています。また、チ・カ・ホを含む都心部の地下空間に広くビーコン(約300個)を設置し、スマートフォンを経由してユーザーの移動経路を収集し、防災のほかにもエリアマネジメントの観点から活用しております。

##### ③サイネージやスマートフォンを活用した来街者移動支援サービス

チ・カ・ホでは、サイネージによる地域情報の配信、スマートフォンによるトイレや駐車場など各施設へのアクセス支援サービスを展開しています。

今後導入したいと考えている技術は下記(4)に記載します。

### (4) 解決の方向性(イメージでも可)

(2)で示した当面の重点課題に対する解決の方向性を以下に示します。

#### ①スマートウエルネス事業のサービス機能の向上

##### ・対象エリアの拡大

現在、国土交通省の事業として進めているスマートウエルネスシティ事業では、主に地下空間での歩行に対するポイント制度の付与を実施していますが、今後、地域住民へのより幅広い効果を促すには、都心部の地下空間だけでなく、都心地上部、さらには郊外部への同制度の普及拡大が重要だと考えています。

##### ・サービス機能の拡充

現在は、既存の複数アプリの連携でサービスを実施していますが、ユーザー利便性の視点から、アプリの改良などを進めることが重要です。さらには、都市側センサの整備拡大と精度向上といった課題にも対応する必要があります。

#### ②プラットフォーム「DATA-SMART CITY SAPPORO」の有効活用

当市が進める各種ICTサービスで得られるビッグデータ(例:移動データ、観光データ、気象データ等)を活用し、エビデンスに基づく政策立案(EBPM)や行政・市民間の合意形成に資することを目指します。さらには、まちづくりへの活用ケースを広げるとともに、地元事業者や市民が積極的に「DATA-SMART CITY SAPPORO」のデータを、まちづくりや産業の振興に活用して頂ける環境と機運醸成を高めることが重要だと考えています。このなかで、現在当市のスマートウエルネスシティ事業で実施しているスマート・プランニングは有益な取り組みの一つだと考えています。今後、更なるスマート・プランニングの推進に向けては、多種多量のデータを官民で効率的に活用できる環境が求められることから、プラットフォーム「DATA-SMART CITY SAPPORO」の機能として、データをMachine to Machine で活用できるような、API等によるデータの自動送受信機能を実装する必要があります。

今後は、以上の取り組みを優先的に実施していく予定です。

### (5) その他

#### ①現在進行中のプロジェクト

##### ・国土交通省:スマートシティ実証調査(スマートウエルネスシティ事業)

##### ・30～50代を対象とし、ポイント制度を含めた健康行動促進事業を実施予定

##### ・都心部におけるICTを活用したまちづくりの推進(内閣府地方創生推進交付金事業「スマート地下空間形成によるビジネス創出事業」;H28～30)

#### ②当面の取り組み予定

##### ・スマートウエルネスシティ事業を、都心部地下空間だけでなく、地表部、郊外部に拡大普及する事業

##### ・上記のサービスの向上

##### ・スマート・プランニング等データ活用ケースの拡充

### ○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
札幌市まちづくり政策局 政策企画部 ICT戦略担当	戸島 宏二	011-211-2136	<a href="mailto:koji.toshima@city.sapporo.jp">koji.toshima@city.sapporo.jp</a>